新潟市教職員の資質向上に関する指標〔教諭〕※講師・助教諭も準ずる

目指すこどもの姿	目指す人間像	目指す学校園教育
人とかかわることを通し、自ら判断・決定し、 夢や目標の実現に向かう姿	**しなやかに　世界と未来を創る人** 新潟市教育振興基本計画「にいがた学びのコンパス」	「多様性」を前提とし、全てのこどもたちの「自分らしさ」が発揮され、 「可能性を引き出す」教育

本指標を活用し、これらを実現できる教職員としての資質・能力を高めていく。

新潟市教育委員会（令和8年4月）

	項目		新潟市が求める着任時の姿	第1ステージ 1　習得期 学級経営、教科指導等の担当業務を中心に、児童生徒と誠実に向き合いながら、授業力の基礎・基本と教師としての素養を習得する		第2ステージ 2　習熟期 校外研修やOJTを積極的に活用して専門性を向上させ、担当業務遂行能力や授業力を高める		第3ステージ 3　充実・還元期 自己の教師力にさらに磨きをかけるとともに、他の教職員が教師力を向上できるように支援する	
A 授業力	ねらいと児童生徒に付けたい力を明確にした授業を構想・展開・評価・改善できる資質・能力	教諭1　カリキュラム・マネジメント⑦	・カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。	1A1	・学校教育ビジョンに基づく資質・能力の育成に向けて、各教科等の系統性及び、教科横断的な視点をもち、単元を構成する。	2A1	・学校教育ビジョンに基づく資質・能力の育成に向けて、各教科等の系統性及び、教科横断的な視点をもち、組織的かつ計画的に教育課程を編成・実施し、常に学校の実態に応じて改善する。	3A1	・学校教育ビジョンに基づく資質・能力の育成に向けて、教育課程の評価・改善、人的・物的な体制の確保に努め、長期的な視点に立ちながら、組織的かつ計画的に教育課程を編成・実施し、常に学校の実態に応じて改善する。
		教諭2　学習者中心の授業デザイン（設計・実践・評価・改善）⑥⑧	・主体的・対話的で深い学びの実現のため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた、学習者中心の授業の在り方を理解する。	1A2	・児童生徒一人一人の実態を踏まえながら、授業のねらいを明確にし、学習者中心の授業を設計・実践する。	2A2	・主体的・対話的で深い学びの実現のため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を意識した単元・授業を設計・実践する。	3A2	・主体的・対話的で深い学びの実現のため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を意識した単元・授業を設計・実践する。 ・他の教職員の指導上の課題を適切に指摘し、改善のポイントを指導・助言する。
		教諭3　各教科等の専門性⑨	・学習指導要領の指導内容と教材との関連を理解する。	1A3	・各教科等において、育成する資質・能力と特質に応じた見方・考え方について理解し、新潟市が目指す授業を展開する。	2A3	・各教科等において、特質に応じた見方・考え方を働かせながら、資質・能力を育成するために必要となる各教科等の専門性を身に付け、新潟市が目指す授業を展開する。	3A3	・各教科等において、特質に応じた見方・考え方を働かせながら、資質・能力を育成するために必要となる各教科等の専門性を身に付け、新潟市が目指す授業を展開する。 ・専門的な知識を基に、指導上の課題を適切に指摘し、改善のポイントを指導・助言する。
B マネジメント力	児童生徒理解と集団状況の把握、対応・運用のできる資質・能力、学校運営に参加する資質・能力	教諭4 集団づくり⑭	・集団づくりについての意義や方法について理解する。	1AB4	・児童生徒の心身の発達の過程や特徴を理解し、一人一人の状況を踏まえながら教師や児童生徒同士での信頼関係を構築し、児童生徒が安心して生活できる集団づくりを行う。	2AB4	・児童生徒の心身の発達の過程や特徴を理解し、一人一人の状況を踏まえながら、教師や児童生徒同士での信頼関係を構築するとともに、目標に向かって考え議論し、支え合う集団づくりを行う。	3AB4	・児童生徒の心身の発達の過程や特徴を理解し、一人一人の状況を踏まえながら、児童生徒との信頼関係を構築するとともに、自ら課題や目標を設定し、考え議論し、支え合う集団づくりを行う。 ・他の教職員に対し、児童生徒理解に基づく信頼関係の構築や支え合う集団づくりに関する具体的な手立てを指導・助言する。
		5　いじめ・不登校への対応⑪⑫	・「生徒指導提要」「新潟市いじめの防止等に関する基本方針」等に基づいて、生徒指導に関する考え方を理解する。	1B5	・一人一人の児童生徒の実態や状況を多面的に理解・把握するとともに、個々の悩みや思いを共感的に受け止める。 ・いじめ・不登校の課題を抱える児童生徒及びその保護者に対して、教育相談や家庭訪問等を通じて適切な支援を行う。	2B5	・一人一人の児童生徒の実態や状況を多面的に理解・把握するとともに、個々の悩みや思いを共感的に受け止める。 ・いじめ・不登校の課題を抱える児童生徒及びその保護者に対して、教育相談や家庭訪問等を通じて適切な支援を行う。	3B5	・一人一人の児童生徒の実態や状況を多面的に理解・把握するとともに、個々の悩みや思いを共感的に受け止める。 ・いじめ・不登校校内対策委員会をコーディネートし、具体的な対応策を講じるとともに、関係機関と連携して迅速に課題解決する。
		6　キャリア教育視点でのよさや可能性の伸張⑩⑬	・キャリア教育の視点をもつ意義を理解する。	1B6	・キャリア教育の視点を理解し、児童生徒一人一人の特性や心身の状況を捉え、良さや可能性を伝える。	2B6	・学校の教育活動全体の学びと実社会とをつなげ、キャリア教育の視点を通して、自分の力で考えて、決めて、頑張ることができたという実感をもたせる。	3B6	・学校の教育活動全体の学びと実社会とをつなげ、キャリア教育の視点に基づくカリキュラムを構築し、他の教職員と協働しながらマネジメントする。
		7　リスクマネジメント⑤	・学校にかかわる様々な危機への対応策を理解する。	1B7	・児童生徒や教職員の生命・心身を脅かす事故・災害・ハラスメント等、様々な場面に対応できる危機管理の知識や視点を備え、管理職に報告し情報を共有しながら対応する。	2B7	・児童生徒や教職員の生命・心身を脅かす事故・災害・ハラスメント等、様々な場面に対応できる危機管理の知識や視点を備え、必要な指導を確実に行う。 ・チームとして課題に対する解決策を考えるとともに具体的な取組を示し、素早く対応する。	3B7	・児童生徒や教職員の生命・心身を脅かす事故・災害・ハラスメント等、様々な場面に対応できる危機管理の知識や視点を備え、全校的な視野に立ち、他の教職員に指導・助言する。 ・チームとして課題に対する解決策を考えるとともに具体的な取組を示し、素早く対応する。
		8　コーディネート④	・家庭や地域、関係機関と連携・協働して、教育活動を行うことの重要性を理解する。	1B8	・地域教育コーディネーターや社会教育施設関係者等の役割や業務内容を理解する。 ・保護者や地域に積極的に関わり、連携・協働して課題解決に取り組む。	2B8	・地域教育コーディネーターや社会教育施設関係者等の情報を基に、目的達成や課題解決のための連携・協働の方法を考え、実践する。	3B8	・学校教育ビジョン達成のために、家庭、地域、社会教育施設等関係機関、他の教職員等と連携・協働して実践する。 ・連携・協働の方法について、他の教職員に指導・助言する。
C 人間力	教員としての適切な言動・人間関係づくりを基盤に熱意をもって職責を遂行する資質・能力	9　使命感・熱意①③	・絶えず研究と修養に励み、学んだことを生かす意欲とやり遂げようとする意志がある。	C9	・新しい時代における教育を意識し、自らの力量向上を目指して研究と修養に励み、組織の中で自らの役割を果たそうとする。 ・職務や役割を十分自覚し、責任を回避せずに最後までやり遂げる。				
		10　社会認識・コンプライアンス①②	・教職に必要な倫理観をもち、法令や条例を理解し、社会的な常識や社会人としての望ましい習慣を身に付ける。	C10	・学校及び教職の意義や社会的な役割・服務等を理解し、法令や「新潟市における法令遵守の推進等に関する条例」を遵守する。 ・教育公務員として、社会的な常識を踏まえ、高い倫理観と責任感をともなった行動をとる。				
		11　コミュニケーション②	・多様な他者と積極的に接し、良好な人間関係をつくる。	C11	・児童生徒、同僚職員、保護者、地域の人等の声に傾聴し、自らの意見も効果的に伝えつつ、円滑なコミュニケーションをとり、良好な人間関係をつくる。				
		12　セルフマネジメント③	・自己の特性を理解し、その時々でモチベーションを維持して活動に取り組む。	C12	・自己の特性を把握し、業務の結果を常にモニタリングしながら目標達成に向けてモチベーションを維持して仕事に取り組む。 ・節度ある生活を心掛け、悩みや不安を一人で抱えこまずに管理職や教職員に相談するなどして、心身の健康を維持する。				
		13　創造性①③	・創意工夫をして業務を遂行する。	C13	・最新の教育的動向を把握し、学校運営の持続的な改善を支えられるように創意工夫をして業務を遂行する。 ・既成概念にとらわれず、多様な視点で発想できる創造的思考を持ち、新しい発想で改善や提案を行う。				
ABC共通項目 14　特別な配慮や支援等の対応⑮			・児童生徒の多様な特性を理解し、協働的に支援を工夫・実践しようとする姿勢をもつ。	1ABC14	・ＵＤの視点を基に一人一人の特性に応じた支援の工夫と基礎的環境整備を、授業や集団づくりに取り入れる。 ・「個別の教育支援計画」の作成を通して、支援に必要な情報を整理し、合理的配慮を行う。	2ABC14	・一人一人の学びと生活を支える支援の工夫を、授業や集団づくりに継続的に取り入れる。 ・「個別の教育支援計画」を基に、関係者と協働し、支援の質を高める合理的配慮を行う。	3ABC14	・一人一人の学びと生活を支える支援の工夫を、授業や集団づくりに継続的に取り入れる。 ・「個別の教育支援計画」を基に、関係者と協働し、支援の質を高める合理的配慮を行う。 ・これまで行った合理的配慮や支援の実践を基に、校内や研修会等で共有・発信する取組を行う。 ・　校内の支援体制の充実に向けて、他の教職員への助言や支援を行う。
ABC共通項目 15　情報活用⑯⑰			・ＩＣＴ機器の基本的な操作方法、情報モラルについて理解する。	ABC15	・教育活動全般で学習の基盤となる資質・能力である「情報活用能力」を育成・活用しながら、各教科等の「資質・能力」を育成する。 ・ＩＣＴの利活用を前提としたこれからの社会の中で、安全を守りながら、責任をもって行動する方法を理解させ、法を守り、倫理的にふるまう能力とスキルを育成する。 ・学校におけるＩＣＴ活用の意義を理解し、ＡＩを含めたＩＣＴや教育データを適切・安全・効果的に活用し業務改善を図る。				